

進出先の人気トップ、中国が再び咲き＝リソーズ社の「海外進出白書」

海外進出支援プラットフォーム「Digima～出島～」を運営するResorz（リソーズ）が31日発表した「海外進出白書」（2017～18年版）によると、進出先国の人気トップに中国が2年ぶりに再び咲いた。昨年は4位だった。

白書の刊行は今回が5回目。同社に寄せられた約2600件の相談を基に調査した。

2位は米国（前年1位）、3位はベトナム（2位）、4位はタイ（3位）、5位はフィリピン（7位）。

白書は、中国進出企業の業種の中で「卸売り・小売業」（31%）と「アパレル業」（7%）の割合が米国と比べて高いと指摘。「明確に日本企業が中国を消費市場として捉えている」ことを浮き彫りにしたものと分析している。

＜5年間の進出先国ランキングの推移＞

